

合志市総合計画における

人口推計

10年後の未来 (R1~R12)

2019年7月
熊本県合志市



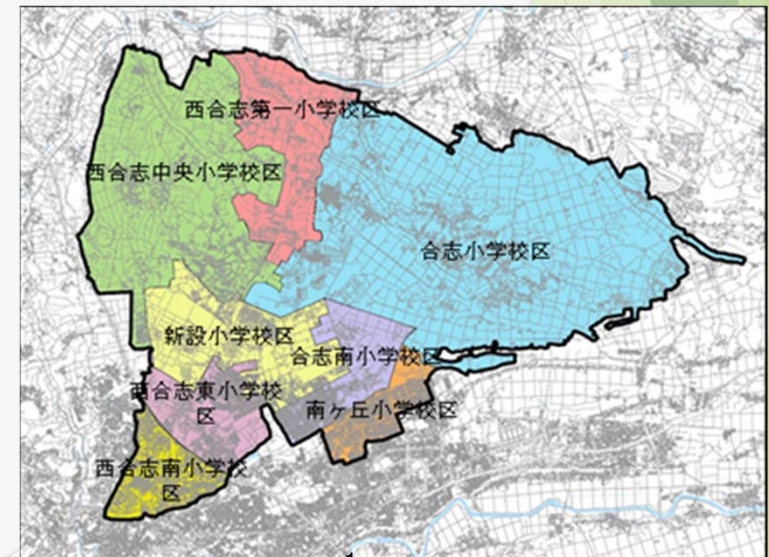
調査の背景

本市における各種計画の策定等に用いる人口推計については、総合計画第2次基本構想(H28.4)の基礎資料として策定した「合志市人口ビジョン」(H27.10)や国立社会保障人口問題研究所による「地域別将来人口推計」(H30.3)があるものの、これらの推計値を上回る人口増加が続いている状況にあることから、今後の各種計画策定等に用いる将来人口の推計を行った。またこれまでの人口推計では、自然増減数(出生人数-死亡人数)と社会増減数(転入人数-転出人数)のみで将来人口を推計していたが、今回は社会的インパクト要因(土地利用計画など)も含め推計を行った。また新設小学校区が既にあることを前提に市全域を小学校区8校区に分け、各校区の域内人口の動態を調査した。

推計指標

- 使用データ
 - 住民基本台帳(4月2日時点)
 - 人口ビジョン等は国調データを使用
- 調査単位
 - 小学校区単位(新設小学校区を加味)
- 採用指標
 - 生残率、出生男女比(厚生労働省公表値)
 - 合計特殊出生率(合志市人口ビジョン採用値) 1.85
 - 転入転出率(H25~H29の5年間平均値)
- 推計事項
 - 年度別3区分別人口(R20迄)、市全域人口(R30迄)
 - 小中学校学年別生徒数・クラス数
 - 放課後児童クラブ対象児童数・クラブ数
- その他加味した事項
 - 社会的インパクト要因(土地利用計画など)

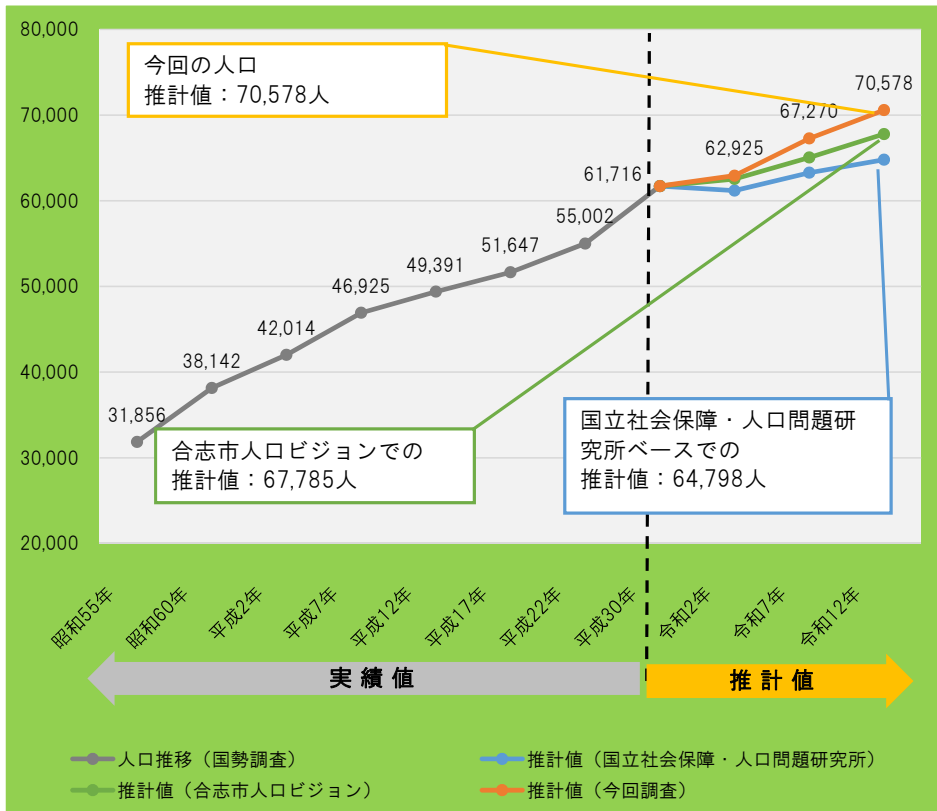
調査小学校区



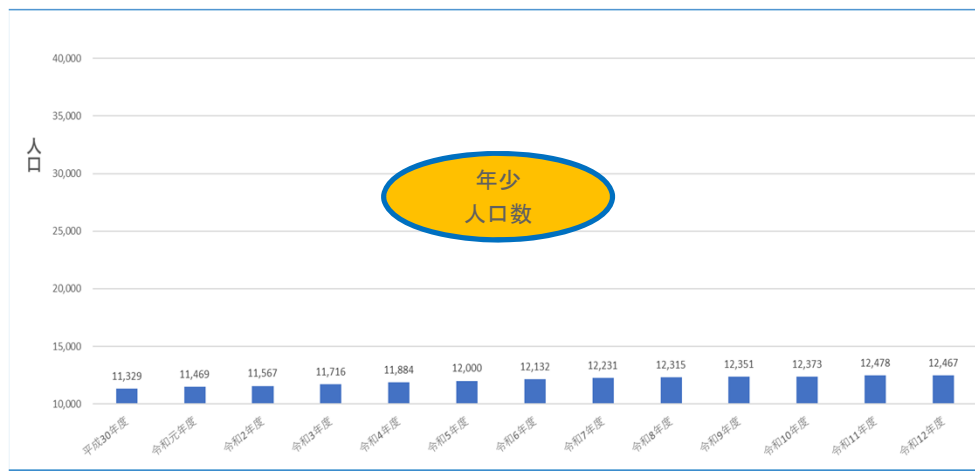
将来の推計人口

本市における令和12年（2030年）の推計人口は **70,578人**

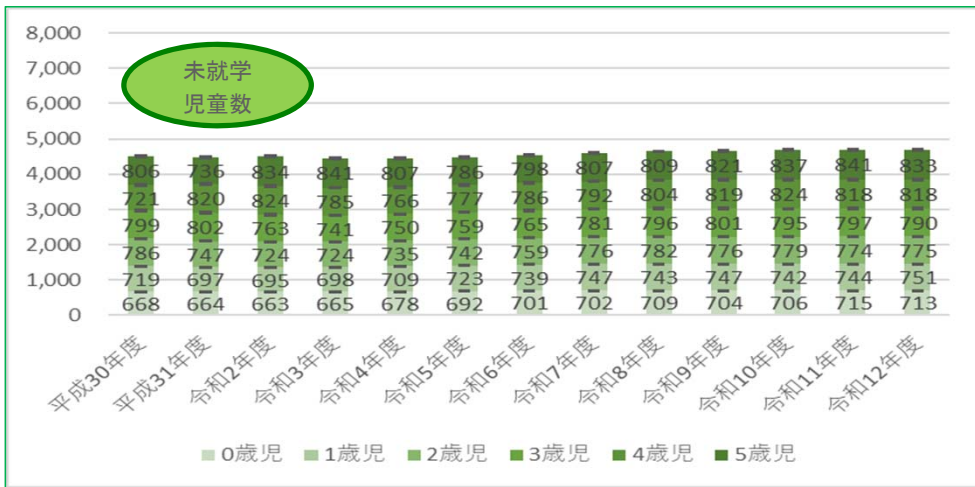
人口の動向



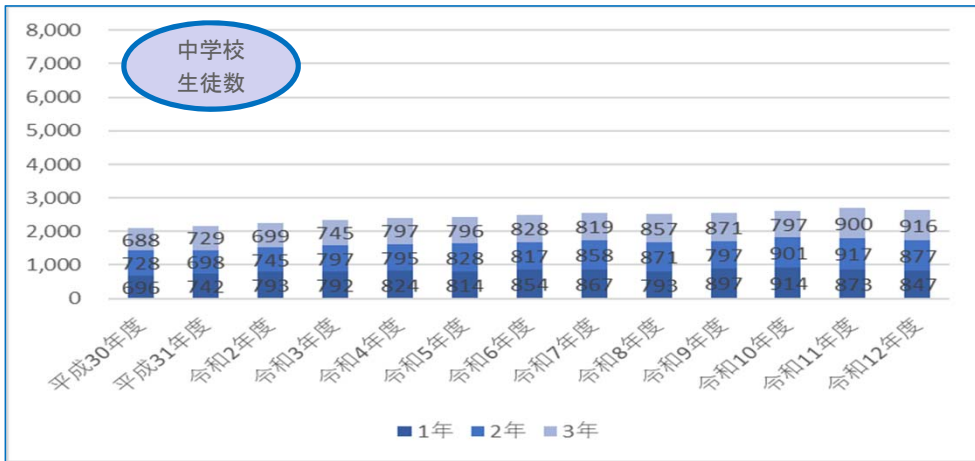
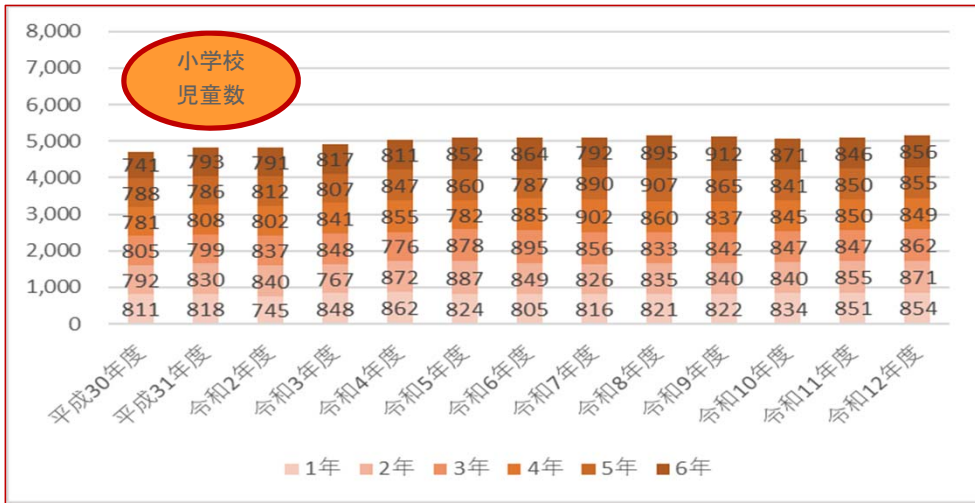
年齢層別人口動向



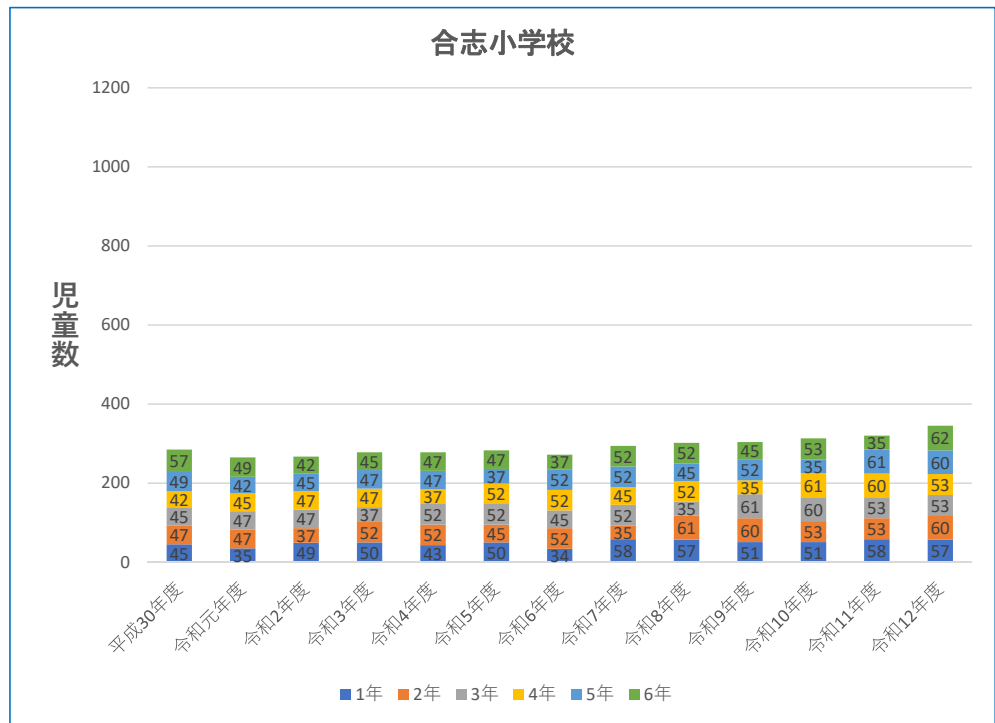
若年層年代別人口動向



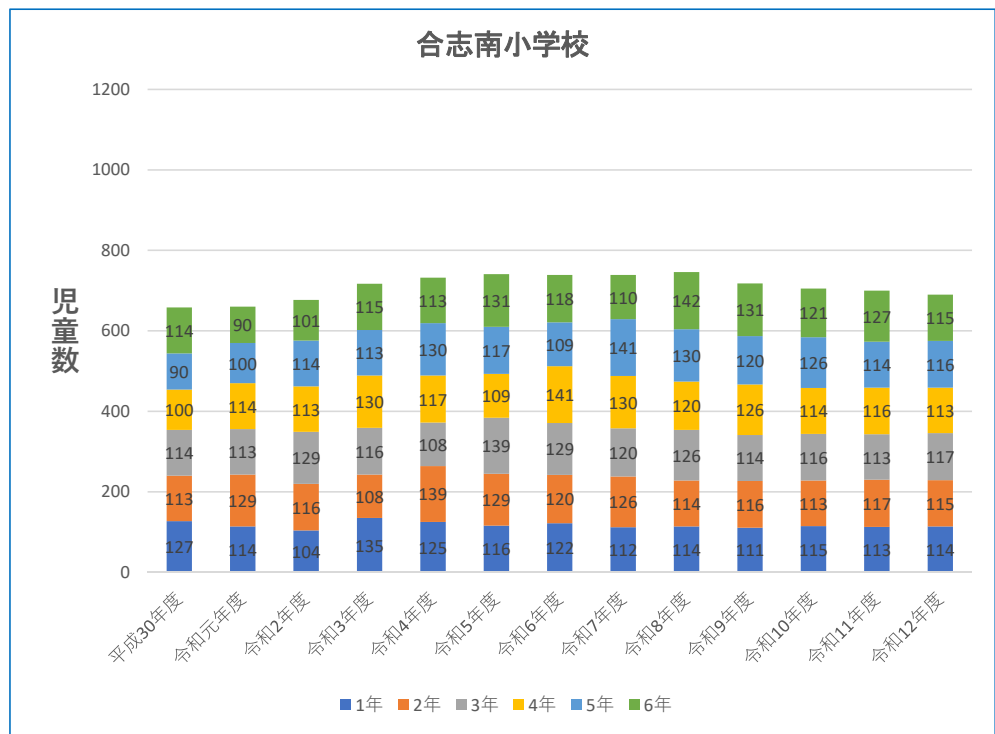
各小学校別児童数動向



合志小学校

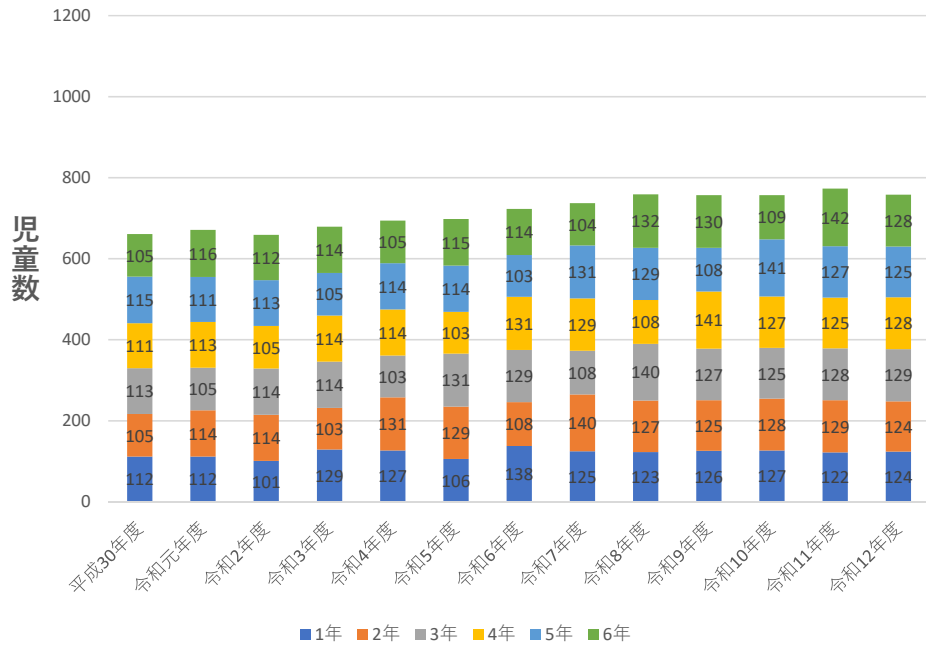


合志南小学校



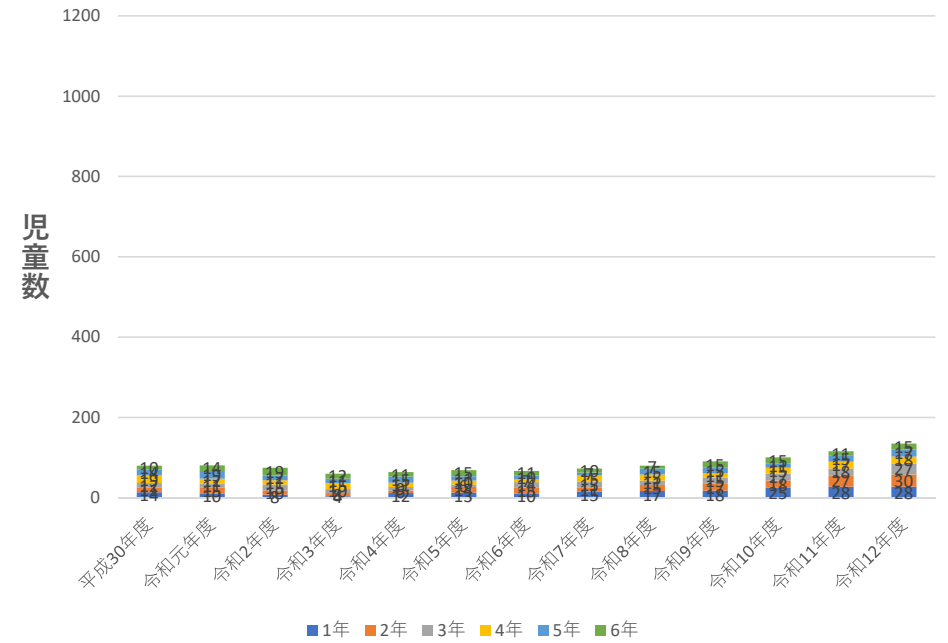
各小学校別児童数動向

南ヶ丘小学校

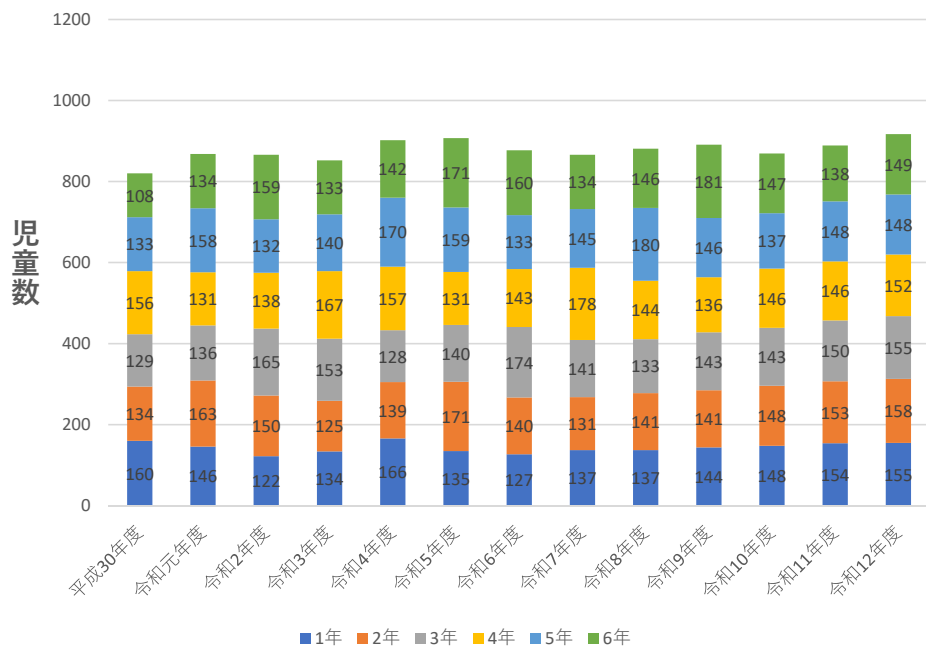


各小学校別児童数動向

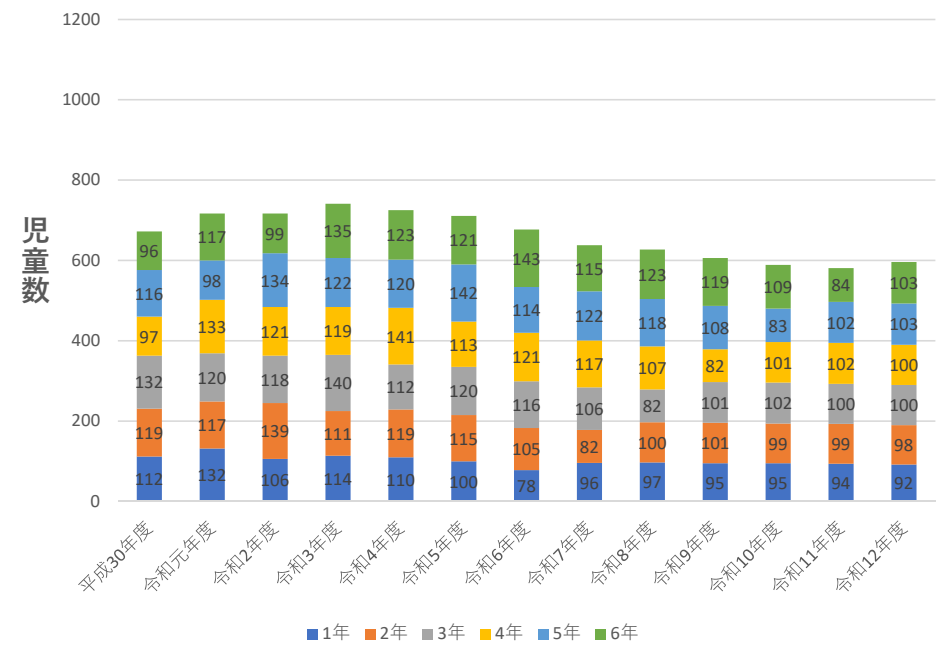
西合志第一小学校



新設小学校



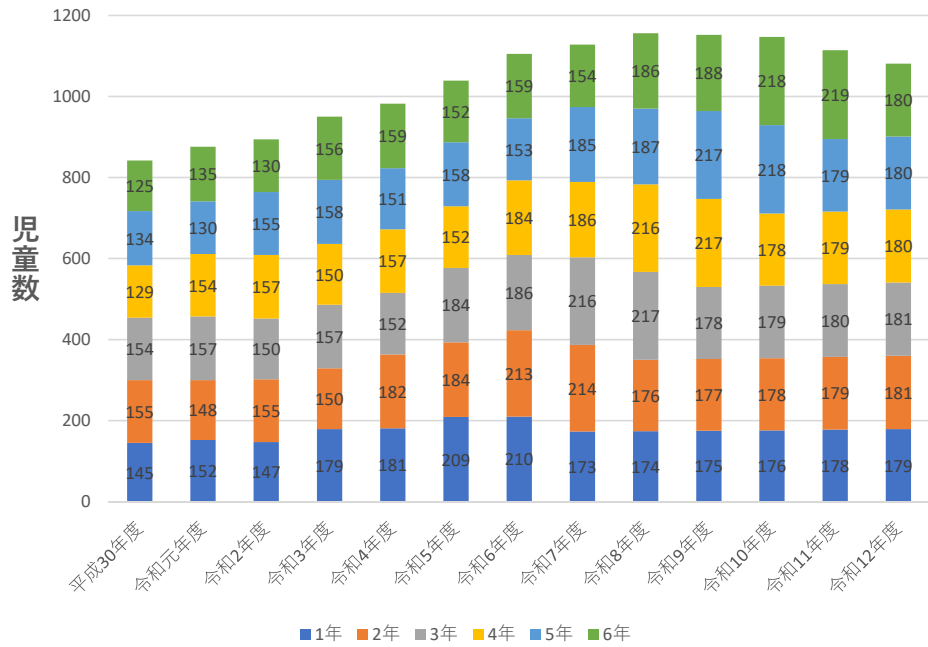
西合志中央小学校



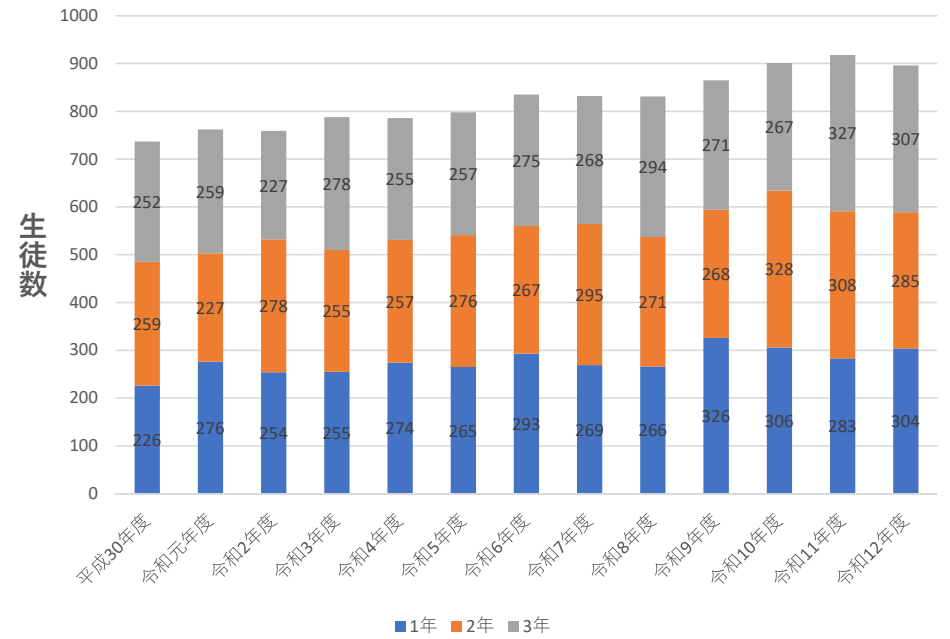
各小学校別児童数動向

各中学校別生徒数動向

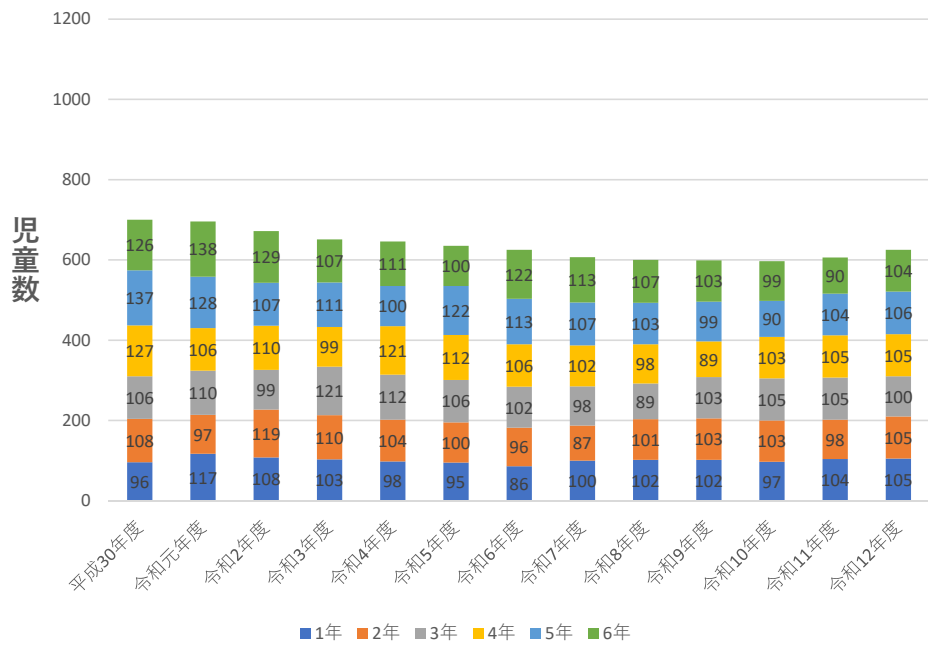
西合志南小学校



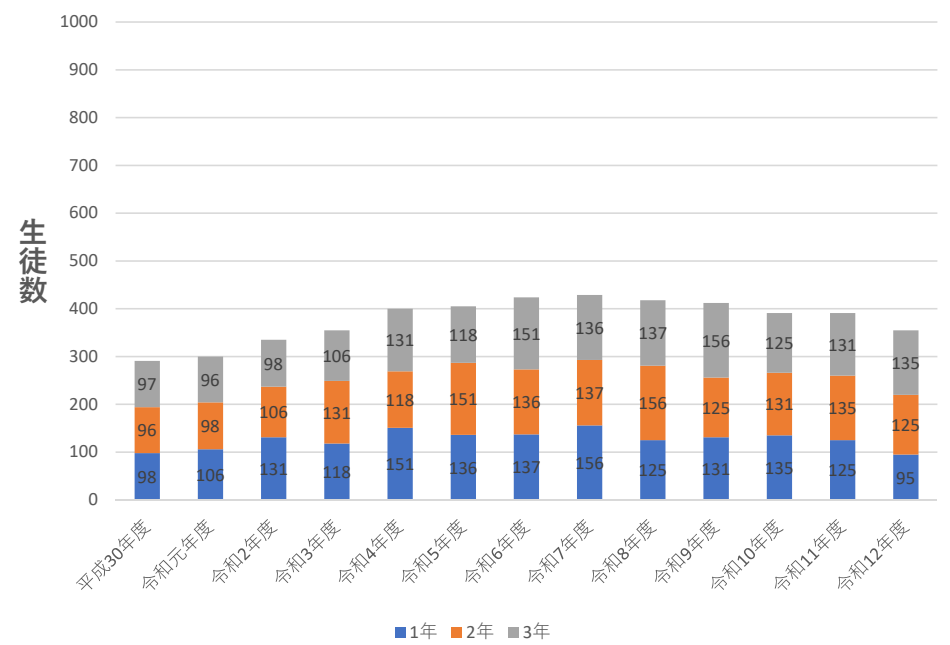
合志中学校



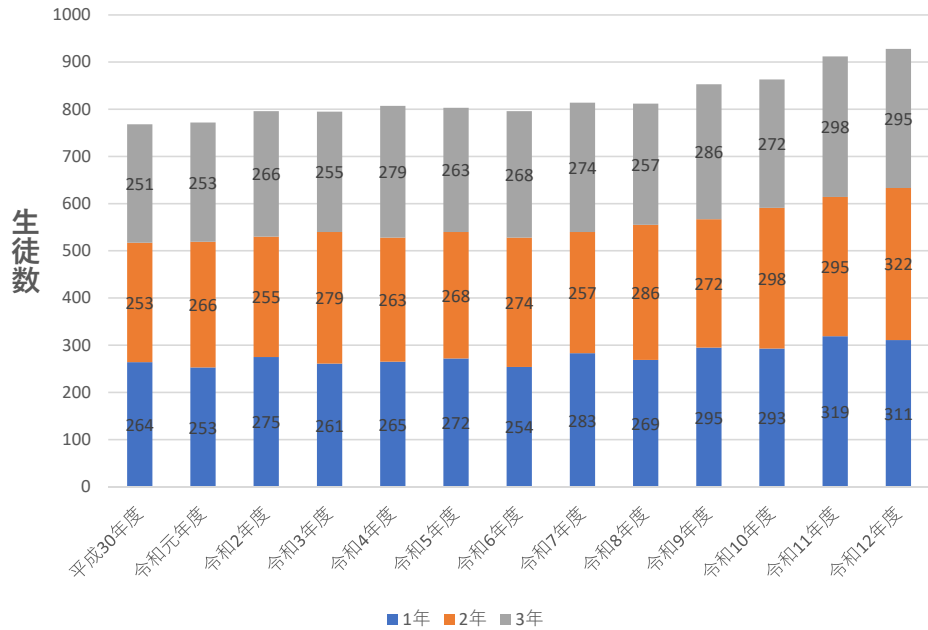
西合志東小学校



西合志中学校

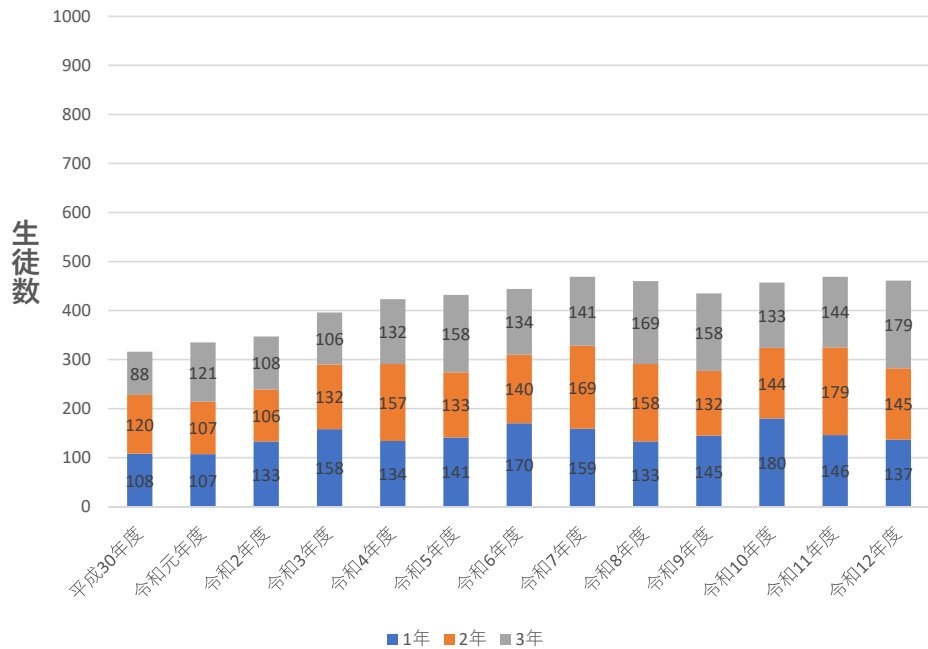


西合志南中学校



■ 1年 ■ 2年 ■ 3年

新設中学校



■ 1年 ■ 2年 ■ 3年

新設小中学校区においては、年少人口、生産年齢人口、高齢者人口すべてが増加傾向にあり、今後も増加が見込まれている。周辺地区で急速に進む宅地開発に伴い、当該地区は0～5歳と25～35歳の社会増が特に多く、比較的若い世代のファミリー層の増加が続くと考えられる。

将来推計人口から見る将来の方向性

今回の推計により、予想以上に人口が長期的に増加する見込みであることがわかった。重点的土地利用計画の進展により、周辺での開発が加速傾向にあり、新たな住宅地が市中央部地域において顕著に増加している。一方、これまで人口増加の受け皿となってきた市南部地域に点在する既存の住宅団地では、それぞれ同世代の住民が多く住んでいるため、局地的な高齢化が進み、地域の活力やコミュニティが低下することも考えられる。

そのため、総人口と年齢構成のバランスや地域ごとの適正な人口構成を保ち続けることが重要で、この推計値を将来人口ビジョンとして各種計画策定に活用するにあたり、人口増加問題へ長期的視野を持って対応していかなければならない。

以上のことを踏まえ、本市は国や県、関係市町村等と連携しながら、企業や地域住民等と一体となって、働く世代の雇用の場の確保は元より、若年層や子育て世代、また高齢者などへの生活環境の整備に努め、活力ある地域社会を創生していきます。



